



支部だより

東北支部

令和7年度化学系学協会東北大会

はじめに

令和7年度化学系学協会東北大会は、2025年9月6日(土)～7日(日)の2日間、山形大学米沢キャンパスにて対面形式で開催されました。米沢市での開催は2014年以來11年ぶりとなります。会期中は、幸いにも晴天に恵まれ、全日程を滞りなく実施することができました。

東北大会概要

本大会は日本化学会東北支部を主催とし、高分子学会東北支部、日本分析化学会東北支部、化学工学会東北支部、有機合成化学協会東北支部、電気化学会東北支部、日本材料学会東北支部、繊維学会東北北海道支部、無機マテリアル学会北部支部、分子科学会東北地区、日本セラミックス協会東北北海道支部、日本接着学会東北・北海道支部、高等学校文化連盟全国自然科学専門部、山形大学の共催で実施されました。東北各県の教育委員会および米沢市教育委員会からの後援も賜り、東北各県を中心に近隣諸国を含む幅広い地域からご参加をいただきました。参加者数は560名、発表件数は355件に達しました。運営面では、講演予稿集のウェブ公開を継続し、参加登録から当日受付までの支払いをクレジット決済に一本化するなど、コロナ禍以降に整備したオンライン運用を活用しました。領

収書・参加証等をウェブで発行し、受付混雑の抑制と効率化を図りました。プログラムとしては、日本化学会会長講演を含む特別講演3件、招待講演12件、依頼講演39件(若手シンポジウム、実行委員会特別企画等を含む)に加え、コロキウム講演も実施され、ポスター発表は298件にも上りました。審査希望285件の中から厳正な審査を経て43件が優秀ポスター賞に選定され、閉会式で受賞者が披露されました。本大会では「次世代を担う若い力の育成」を重要な目的の1つに掲げ、高校生の参加促進に向けた施策を実施しました。会期を高校生が参加しやすい9月上旬に設定し、県内外の高校や教育委員会への周知を強化するとともに、引率教員の旅費補助など新たな取り組みも行いました。その結果、山形・秋田・宮城の3県から高校生24名、高校教員9名にご参加いただき、化学教育研究協議会東北大会における発表も含め、若い世代との接点を拡充することができました。懇親会は大会初日の9月6日(土)18時よりロイヤルパインズホテル米沢にて開催され、招待者14名を含む125名が参加しました。名物の米沢牛入り芋煮や県内の地酒を提供し、余興として日本酒試飲会も実施され、参加者間の交流・情報交換が一層深まりました。



ポスター会場の様子



懇親会での一コマ

おわりに

大会運営にあたり、広告掲載・ブース出展等で協賛いただいた企業各社ならびに実行委員、学生アルバイトの皆様、支部事務局スタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。次回の東北大会は、伊東俊司先生(弘前大学)を実行委員長として、9月5～6日に弘前大学文教キャンパスにて開催される予定です。次回大会のさらなる成功を祈念し、本報告の結びといたします。

〔令和7年度東北大会 庶務幹事長
増原陽人(山形大学)〕

© 2026 The Chemical Society of Japan